若者向けライフデザイン教育プログラムの開発と組織的な地域実装（パーソルホールディングス株式会社／国立大学法人山口大学）

- 人生の中で多くの時間を割く「キャリア」を早期から「ライフ」と一体でデザインするワークショップを開発し、将来を見据えた行動変容を促すきっかけとなる学びを、地域の関係機関で連携し組織的に提供するモデルを構築した。またこの度の効果分析では、「ライフ」の教育が「キャリア」の教育効果を更に高める結果が得られ、２つを合わせて実施することの有効性が示された。

実施目的

- キャリアとライフそれぞれの解像度を上げ、接続させるライフデザインサービスを開発・提供し、地域の関係機関が協力して組織的に導入していく仕組みとモデルを作り、将来の横展開を含めた機運の醸成に繋げること。

実施内容・スケジュール

- 実証フィールドである山口県美祢市にあるA高校1年生67名を対象に5日間の基礎＋応用プログラム（令和7年11/19、11/25、12/10、令和8年1/14、1/28）を、B高校2年生70名を対象に1日間の基礎プログラム（令和7年12/9）を実施した。
- これと並行し、プログラムのLP（ランディングページ）作成と、地域における組織的連携を持続的なものとしていくためのラボ発足準備を行い、プレゼンスを高めた。

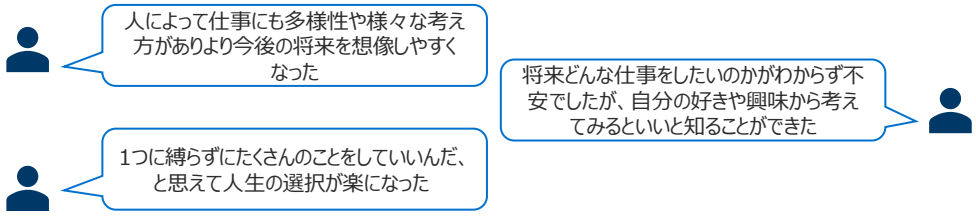
	令和7年			令和8年
	10月	11月	12月	1月
A高校実証		Day1実施 Day2実施	Day3実施	Day4実施 Day5実施
B高校実証			Day1実施	
LP作成		LP設計		LP公開
ラボ発足		事例調査開始	中間報告会	ラボ発足会議

実施体制・実証フィールド

- パーソルホールディングス株式会社：プログラムの開発、実施
- 山口大学：プログラム開発・効果検証支援、実証フィールド構築
- A高校・B高校：プログラム実証校
- 美祢市教育委員会：実証フィールドの調整協力
- 山口県：政策検討、関係機関調整

効果検証結果

- キャリアライフデザインプログラムは、事前・事後調査結果によると、「ライフデザインの明確化」・「起業家的創造性志向」・「管理志向」の向上に効果があることが明らかになった。



ライフデザイン支援の普及・拡大に向けた示唆

高校生が人生について考える際に軸としたいキャリア領域の志向（「起業家的創造性志向」・「管理志向」）について、ライフ領域の要素を持ち合わせた包括的視点で考える機会を提供することが、将来の生き方・働き方についての解像度を高め、上記の効果につながったと考えられる。

今後は、パーソルHDの「FR（Future Generations Relations）」活動の一部として全国の高校にフィールドを広げ、地域での組織的なキャリアライフ支援を進めていく。